

令和5年度（2023年度）事業評価

(大項目) 1. 地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館												
目 標		吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。また、地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。										
(中項目) ①資料の収集・保管・活用				自 己 評価点	【自己評価】 《資料の収集・保管・活用》 長年の懸案事項であった館蔵資料データベースを令和6年3月にホームページ上で公開した。今後はデータベースへの資料登録を着実に進めていくことが課題である。 重点収集資料は、西村公朝資料 64点の寄贈があった。市域の重要な荘園である垂水荘関連資料「摂津国垂水庄文書（嘉禎四年摂津国垂水庄灌頂御影供二会糴米料所宛行状）1幅を購入した。 [重点収集資料] 西村公朝資料 64点 [歴史] 6,848点（資料総数 29,919点） [美術] 64点（資料総数 1,791点） [考古] 181点（資料総数 4,414点） [民俗] 561点（資料総数 4,696点） 新規収蔵資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と館内環境モニター調査を実施した。どちらも良好な結果となっている。 《調査研究》 大坂画壇関係資料、市内美術資料は令和5年度秋季特別展図録として、垂水遺跡、垂水南遺跡、五反島遺跡出土資料の調査は令和6年度春季特別展図録でそれぞれ成果を公表した。また、垂水庄文書購入に係り垂水庄の関連文書の調査を行った。			自 己 評価点	【外部評価】 《資料の収集・保管・活用》 懸案であった資料データベースの公開が、令和6年3月よりホームページ上で始まったことは大きな前進であり、大きな価値を認めたい。データベースの整備・公開は、市民による利用環境を格段に改善するだけでなく、博物館の効率的な運用にも大きな利便性を与えるものであり、資料の活用が一層進展すると考えられる。ただ、図書資料のほかは、まだわずかなので、今後の充実と効率的な運用が期待される。また、データベース公開は有意義だが、検索することがむづかしい。文字が完全一致していなくても検索できるようになってほしい。 歴史面での万博関連資料・吹田事件裁判資料等の寄贈を、美術面では、重点収集資料の西村公朝資料の寄贈を受ける等資料の充実化が図られている。社会科の学習や総合的な学習における「地域学習」を実施する際の貴重な資料として、文化遺産が収集され、展示されていることは、リアルを実感でき、学びを高める効果があると考えられる。 厳しい状況の下でも資料の収集を着実に進め、歴史・美術・考古・民俗いずれの分野でも前年度を大きく上回る点数を収集したことはこれまでの活動の成果であり、多く収集されたのは、大いに評価できる。 資料収集については、予算の有無にかかわらず、古書店、古美術商などからの情報収集は継続的に続け、積極的に関係業者との関係は密にしておくことが望ましい。 日々の収集活動及び収蔵庫の空気環境などの管理においては大変満足できる状況を維持していただいており、これは大きく評価できる。 一方で、収蔵余力がほとんどない現状にあることも事実である。これは博物館側の努力だけで解決することは難しく、市政の課題でもある。市政として博物館に何を求め、それに見合う施設など条件を提供することが必要である。今後10年程度の開発計画、人口動態などを参考に、新たに博物館として収蔵すべき資料がどの程度見込まれるのか、博物館と担当課でよく協議し、将来に向けた収蔵余力の確保を図る必要がある。 《調査研究》 地域史に関する調査研究および館内の研究会は、目標どおりに行われている。リニューアルに向けての調査は、予算をあまりかけずともできる範囲で工夫して進めていただきたい。「野外彫刻」及び「橋本家文書」の研究発表が行われたが、多くの市民の共感を呼び、有意義な研究内容であったことは高く評価できる。千里ニュータウンの野外彫刻については、調査結果をどのように生かすか、例えば大阪大学内の屋外彫刻は大阪大学で調査済み、モノレール美術館の作品の確認、豊中市の屋外彫刻との連携の可能性はないかなど、さらに検討をしてほしい。			外 部 評価点
(小項目)	(重点項目) a . データベースの構築	指標・目標	データベース構築の進捗度	A		A		AA				
		実績	自己評価欄に記載									
	(基本事業) b .. 資料の収集	指標・目標	収集方針に基づいた資料収集を行い、適切に整理・登録を行っているか。	A								
		実績	自己評価欄に記載									
	(基本事業) c . 収蔵環境の維持	指標・目標	“新規収集資料燻蒸回数（2回/年） 館内環境調査回数（2回/年） 収蔵庫燻蒸回数（1回/3年）”	A								
		実績	“新規収集資料燻蒸回数 2回 館内環境調査回数 2回 収蔵庫燻蒸は不実施年”									
(中項目) ②調査研究												
(小項目)	(基本事業) a . 地域史に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 13件	A			A		AA			
		実績	地域資料調査 14件									
	(基本事業) b . 博物館運営に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 3件	A								
		実績	自己評価欄に記載									
	(基本事業) c . 学芸研究会業)	指標・目標	学芸研究会実施回数（2回/年）	A								
		実績	学芸研究会実施回数 2回									

(大項目) 2. 地域文化の情報発信拠点としての博物館									
目標		地域の歴史と文化を紹介する常設展示と幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。また、地域の文化の情報発信の役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ります。そのため、博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信公開します。							
(中項目) ①常設展示				自己評価点	【自己評価】	自己評価点	【外部評価】	外部評価点	
(小項目)	(重点項目) a.リニューアル	指標・目標	リニューアル計画の進捗度	A	《常設展示》 大規模改修に伴う常設展示リニューアルにむけて引き続き資産経営室との協議を行った。博物館利用に関する意識調査のコンサル委託費は、令和6年度予算でも不実施となり7年度予算として再計上する予定。また、本年度より館蔵資料の公開・活用を進めるため「学芸員のおすすめ展示」等としてスポット展示を始めた(5年度は2回実施)。今後、およそ2か月を公開期間として展示替えを継続していく。 「さわる月間」はコロナ禍以後初めて市民ボランティアとの協働によるによって実施し、関連イベントを行った。	A	《常設展示》 昨年も指摘したが、大規模改修に向けたスケジュールを着実に進め、リニューアルの実現に確実に繋げるとともに、展示内容を精査し、展示論の到達点を踏まえたリニューアルとなるよう期待している。リニューアルのための調査については、コンサル委託をする前段として、試験的な調査を進めておくのはどうか。 仏師西村公朝とその作品についての発信に力を入れているのは評価できる。展示スペースも充実し、さらに発信するための方法の開発も検討されたい。	A	《外部評価》 春季特別展・企画展・夏季展示・秋季特別展・特別企画と5回の展示と関連事業を実施できたことはよかった。特に新型コロナウイルス対策のために延期になっていた「神崎川展ー川港・吹田のものがたり」、「西村公朝 挿絵原画の世界」が今回、開催されたことは意義深い。いずれの企画展示も市民に懐かしさと感動を与えたことは間違いない。担当された方の熱意と工夫と努力に謝意を表したい。
	(重点項目) b.さわる展示	指標・目標	「さわる月間」の開催(1回/年)						
		実績	実施						
(中項目) ②企画展示									
(小項目)	(重点項目) a.特別展等の開催	指標・目標	展示目標は達成できているか。	A					
		実績	自己評価欄に記載						
	(重点項目) b.西村公朝資料の展示と活用	指標・目標	展覧会は実施の有無	A					
	実績	自己評価欄に記載							
(基本事業) c.企画展示の中期計画立案	指標・目標	展示の中期計画立案の有無	A	実績	立案した				
(中項目) ③地域学習の支援					《地域学習の支援》 イベントの回数、参加人数はともに指標値には達していない。オンライン講演会・講座の公開は2本にとどまった。出前講座は図書館、主に地区公民館、市民センター、コミュニティセンター等の市施設に講師を派遣したが、回数と参加人数は指標値を下回っている。学芸員の負担を考慮しながらにはなるが、各施設への講座メニューの提示するなど対応を検討していきたい。 レファレンスは前年度の52件より増え、67件となり増加傾向にある。質問手段内訳は閲覧者24件、来館19件、電話21件、Eメール3件で、閲覧者による質問がほぼ倍増となった(前年度は13件)。春季特別展「大坂の陣と吹田村」で扱った橋本家文書は初公開の資料も含まれ、多くの関心が寄せられたことも要因であろう。	A	A	《情報発信》 ホームページは教育センターのサーバーを使用していたが、セキュリティ上の問題から令和6年2月に本庁のサーバーに移転し、これに伴いリニューアルを行った。アクセス数は2月末までの参考値である。フェイスブック投稿回数は前年度より減少したが、吹田市公式LINEセグメント配信をフェイスブック投稿と同時にいった。LINE発信によってイベントへの応募者が増える傾向がみられたことから、多種あるSNSの使い分けを検討する必要がある。 本年度の取材・報道は、テレビが8件、ラジオが1件、新聞が2件、広報課2件であった。取材・報道の内容は特別展等に困んだものが主であるが。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した5月にコロナ関連のテレビ取材が3件続いた。コロナ禍から進めてきた新型コロナ関連資料の収集・展示などの取組が生きたと思われる。	
(小項目)	(重点項目) a.多様なイベントの実施	指標・目標	イベント回数 72回/年 参加者数 3,356人/年	B					
		実績	イベント回数 67回 参加者数 2,898人						
	(基本事業) b.出前講座・依頼講座	指標・目標	出前講座回数 25回/年 参加者数 804人/年	B					
	実績	出前講座 18回・ 参加者数 398人							
(基本事業) c.レファレンス業務	指標・目標	レファレンス件数 37件	A	実績	レファレンス件数 67件				
(中項目) ④情報発信					《情報発信》 ホームページは教育センターのサーバーを使用していたが、セキュリティ上の問題から令和6年2月に本庁のサーバーに移転し、これに伴いリニューアルを行った。アクセス数は2月末までの参考値である。フェイスブック投稿回数は前年度より減少したが、吹田市公式LINEセグメント配信をフェイスブック投稿と同時にいった。LINE発信によってイベントへの応募者が増える傾向がみられたことから、多種あるSNSの使い分けを検討する必要がある。 本年度の取材・報道は、テレビが8件、ラジオが1件、新聞が2件、広報課2件であった。取材・報道の内容は特別展等に困んだものが主であるが。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した5月にコロナ関連のテレビ取材が3件続いた。コロナ禍から進めてきた新型コロナ関連資料の収集・展示などの取組が生きたと思われる。	A	A	《外部評価》 講演会等のオンライン講座のコンテンツのホームページでの公開は、当日参加できなかった利用者にとってとてもありがたく、今後は講演会をYoutubeにアップすることについて、できない理由を語る前にできる方法を検討してほしい。 また、スマホの活用が増えているが、今後はスマホに不慣れた高齢者を引き込むためにも、情報発信のあり方を引き続き工夫していただきたい。	
(小項目)	(基本事業) a.ホームページ	指標・目標	アクセス数 36,264回/年	A					
		実績	アクセス数 45,477回 (サーバー移転のため2月末までの参考値)						
	(基本事業) b.ソーシャルメディアの活用	指標・目標	フェイスブック投稿回数 21回/年	A					
	実績	フェイスブック投稿回数 30回							
(基本事業) c.広報の充実	指標・目標	取材・報道件数 17件/年	B	実績	取材・報道件数 13件				

(大項目) 3. 市民と協働し、ともに活動する博物館										
目 標		市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのための博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。								
(中項目) ①市民参画と協働				自 己 評価点	【自己評価】			自 己 評価点	【外部評価】	外 部 評価点
(小項目)	(重点項目) a.ボランティア活動の支援	指標・目標	活動人数 466人／年 活動日数 72日／年	A	《市民参画と協働》 ボランティア活動は特別企画「むかしのくらしと学校」ボランティアを中心に堅調に行った。 令和5年度夏季展示実行委員会は会議回数を確保するため例年より早く12月に立ち上げた。ボランティアや実行委員の参加者数の確保は課題として残っているが、現在の参加者の充実度は高く、活動内容を周知するなど対策を講じていきたい。また、展示活動への市民参画を進めるため、市民を対象にしたワークショップ形式による博物館展示の考え方、組み立て方、展示手法などの研修（7回連続講座・参加者13人）を実施した。 その他市協働事業としては、コロナ禍以前に行っていた「すいた歴史散歩」、「観梅会」、「お花見コンサート」を再開した。 アンケートについては、令和5年度は6回の企画展示ごとに来館者向けのアンケートを行った。来館者全員にアンケート用紙を配付しているが、回答率は全体平均7.7%で、前年度（6.9%）よりは多少増加したが、低調である。回答しやすくするため、電子アンケートの活用について検討を始め、6年度から実用の予定である。 《紫金山公園ビジターセンターの建設準備》 土木部公園みどり室による紫金山公園魅力向上事業が令和5年度から始まり、市民参加のワークショップが2回実施された。6年度にもワークショップ2回と社会実験1回が予定されており、公園内の博物館の役割と紫金山公園ビジターセンターの見直しは、その中で市民の意見を聴きながら協議していく。	A	《市民参画と協働》 市民との協働を長年継続できていることは大きな貢献であると感じる。ボランティア活動は活動人数・日数ともコロナ以前の状況に回復しつつあり、オンライン会議等をうまく併用しながら、進めていただきたい。今回、新たな取り組みとして、千里ニュータウン地域にある野外彫刻の調査を市民協働のもとで実施したことは前向きな行動として評価される。参画した市民から得られる意見等を次の新たな企画・運営に活かしていけば、意気に感ずる市民が増加し、更にボランティア活動は盛り上がるものと思う。市民目線での企画・活動を一層期待する。 また、学校における総合的な学習等において、博物館と連携し、展示などの企画に参加した際に、学芸員やボランティア、サポーターからの支援によって、吹田市で学ぶ子どもたちが、将来的に「ふるさと吹田のために貢献しよう」と志すきっかけになればと考える。 アンケートは、リニューアルのための調査にも関連すると考えられ、利用者からのヒアリングなどによって、実施法・設問ともに工夫・改善に努めていただきたい。特別展のアンケートをフィードバックに利用できるようにアンケート内容を特別展ごとに質問事項を吟味してはどうだろう。特に「むかしのくらしと学校」のアンケート質問項目はPDCAに使えるようにしてほしい。 《紫金山公園ビジターセンターの建設準備》 紫金山公園ビジターセンターについては、土器づくりの場など博物館本館でできない催事をおこなう場が必要だと考える。公園みどり室としっかり協議を行い、教育委員会と市長部局との壁を乗り越えての協働を期待する。「紫金山公園魅力向上事業が令和5年度よりスタートする見込み」とあるが、どうだったのか。毎回、この項目はあまり進展がなく、項目自体の見直しが必要ではないか。	A		
		実績	活動人数 延べ441人 活動日数 延べ63日							
	(重点項目) b.市民実行委員会による展示事業	指標・目標	実行委員参加人数 16人 実行委員活動日数 51日	A						
		実績	実行委員参加人数12人 実行委員活動日数47日							
	(基本事業) c.アンケートの実施	指標・目標	企画展示実施回数（令和5年度は6回）	A						
		実績	アンケート実施件数 6件							
	(基本事業) d.博物館事業への市民の参画	指標・目標	市民講師件数 29件 市民の原稿執筆件数 4件	A						
		実績	市民講師件数 26件 市民の原稿執筆件数 5件							
	(基本事業) e.市民団体との協働事業	指標・目標	連携事業件数 3件	A						
		実績	連携事業件数 3件							
(中項目) ②紫金山公園ビジターセンターの建設準備										
(小項目)	(基本事業) a.紫金山公園ビジターセンターの建設	指標・目標	ビジターセンター建設計画の進捗度	B						
		実績	自己評価欄に記載							

(大項目) 4. 社会とともに歩む博物館

目標	学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。また、博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。										
(中項目) ①連携				自己評価点	自己評価点	外部評価	外部評価点				
(小項目)	(重点項目) a.北大阪ミュージアム・ネットワーク	指標・目標	事業実施件数 1回/年	B							
		実績	事業実施件数 1回								
	(基本事業) b.他機関との連携事業	指標・目標	事業実施件数 1回/年	B							
		実績	事業実施件数 1回								
(中項目) ②学校教育との連携				自己評価点				外部評価	外部評価点		
(小項目)	(重点項目) a.学校教育による利用の促進	指標・目標	学校団体見学校数 18校 出前授業件数 7校 教員への研修 1回/年		A						
		実績	学校団体見学校数 24校 出前授業件数 8校 教員への研修 0回								
	(基本事業) b.学校教育への支援	指標・目標	設定していない		B						
		実績	自己評価欄に記載								
(中項目) ③人材育成					(小項目)	(基本事業) a. 実習・研修等の受け入れ	指標・目標			実習受入11校・人数 24人 インターンシップ人数 1人 JICA研修受入人数 5人	A
実績	実習受入11校・人数 15人 インターンシップ人数 1人 JICA研修受入人数 0人										

【自己評価】

《連携》
新型コロナウイルス感染症により休止状態のネットワークの活動を再整備するため参加館に対するアンケート調査を行うべく幹事館で検討を行った。西国街道連携事業はリレーウォークに事業参加した。

《学校教育との連携》
特別企画「むかしのくらしと学校」は、小学校団体見学は24校（前年度は23校）で前年度より1校増加した。出前授業は8校（前年度は10校）で実施した。来館した学校の教員アンケートによれば、児童にとって主体的で対話的な学びの場になったと好評であった。
新たな取り組みとして、不登校生徒を対象とした「職場体験学習の場づくり」のシステム化を市教育センターと連携して行った。

《人材育成》
館園実習では展示実習を再開し、その成果を博物館実習展で公開した。インターンシップは1人・のべ7日で実施した。JICA研修は受入要請なし。

【外部評価】

《連携》
コロナのためやむをえない事情があったが、連携事業が少ない点は残念である。吹田市内部の機関との連携は、まだ調整がしやすいと思うが、外部の機関との連携は、先方の事情も含めて今後の課題であろう。連携 ⇨ “博物館” あるいは “生涯学習施設” 間の連携など、項目名の検討が必要か。北大阪ミュージアム・ネットワーク事業も見直し、もしくはそれに代わる事業の検討が必要ではないか。

《学校教育との連携》
コロナにより不実施であった「むかしのくらしと学校」において、「展示物を見る」だけでなく、「さわる・ふれる・実感する」体験型展示が復活でき、小学校団体見学校が23校に大きく増え、また出前授業は10校となり、学校数も増えたことはよかった。市教委内で連携して、利用する学校数を維持できるよう続けてほしい。
体験することに最も影響を受けやすい時期の小学生に、学校教育では体感できないコンテンツを博物館が提供することは、博物館が小学生の教育向上に大きく貢献しているものと考ええる。引き続き、実感・体感できる展示運営への挑戦・工夫を期待している。
出前授業についても ICT 機器を活用し、できるだけ多くの学校が活用出来る工夫もしている。教職員研修についても、他市町にある博物館ではなく、吹田市立の施設で研修できることは、非常に有意義だと考える。

《人材育成》
館園実習の受け入れを再開し、コロナ以前に戻したとのこと、人数こそ目標値に届かないが、相手のあることで仕方がない。少数だからこそ丁寧な実習指導ができればよいと考える。
インターシップの受け入れは、出前授業などの博学連携的事業とあいまって、この社会の中での吹博の位置を確かに示せている。